

温泉観光協が今夏運行

関西—栗津 直行バス

小松市の粟津温泉観光協会は今夏、大阪、京都と粟津温泉を結ぶ直行バスの運行を始める。地元石川に次いで入り込みが多い関西圏からの利便性を向上させ、宿泊客数増を目指す。散策コースの開発などで温泉街の回遊にもつなげたい考えで、八日に開いた説明会で商工会やまちづくり女性会のゆのはな会に協力を求めた。

計画では、バス便は七月二十日から八月末まで毎日一便運行する。午前九時に大阪を出発、京都を経由し、午後二時に粟津温泉に到着する。関西

に戻る翌日のバスは午後三時発とする。往復料金には、JRの大阪—小松が一萬二千四百円（特急料金含む）に対し、三千八百円を予定、割安感を打ち出す。バスは一便四十五席。旅館協同組合加盟の六旅館が数席ずつ買い取り、

それぞれ受け持ち分を販売する。バス利用の宿泊客が獲得できなければ持ち出しとなり、各旅館の営業力が問われる形となる。観光協会は街中に出てもらう仕掛けも検討す

1日1便、往復3800円



る。桂木実会長は昼食場所を記した「グルメマップ」などの作製を提案した。

粟津温泉の宿泊客数は一九九一年の六十一万人をピークに減少し、二〇〇七年は約十七万人に落ち込んでいる。ここ六年で旅館四軒が廃業する逆風の中、桂木会長は、バスの運行について「各旅館が座席を買ってでも集客に力を入れるという決意の表れ。宿泊客増に結びつけば継続したい」と話している。

6旅館が座席買い取り

恋人の聖地事業を説明

粟津温泉旅館協同組合で開かれた観光協会の説明会では、新年度の「恋人の聖地」キャンペーン事業の方針も示された。四月から恋みくじの製作・販売を始め、同月中にカッパルらが写真撮



とを誓い合った。

法師善五郎代表理事は、今年は二十三日着工の新総湯、道路改修、都市緑化で温泉街の整備が大きく進むことを挙げ、「ものづくり産業と観光産業のバランスがとれて素晴らしいまちづくりができる。美しい自然環境心の癒やしを守っていきたい」と決意を述べた。

「再生元年」発展を旅館協組が懇談会
粟津温泉旅館協組の観光懇談会「写真」は八日、同温泉の喜多八で開かれ、出席者は今年を「再生元年」と位置付け、温泉街の発展に努めるこ

影でできる顔抜き看板や、幸せの鐘周辺での南京錠取り付け場も設置する。粟津温泉は昨年七月、NPO法人の地域活性化支援センター（静岡市）から県内で唯一「恋人の聖地」の認定を受けた。

西村徹市長、一川保夫参院議員、福村章卓議があいさつ、森喜朗元首相の祝電が披露され、橋本康容市議会議長の発声で乾杯した。田地仁志副議長